

－ 第4章 －

先駆者が積み重ねた貴重な足跡

田中 登 さん (落合自治連合会)

多摩市自治連合会 第8代会長



平成3年(1991)自治連合会会計監査委員として役員に就任。副会長を経て、平成9年会長に就任され、平成11年までの3年にわたり多摩市自治連合会会長を務められました。多摩市の歴史に深く、広く精通し、自治活動に大きな足跡を残しながら、87歳を迎えた今でも地域活動に現役で取り組まれておられます。

— 今日、自治連の歴史、多摩市の歴史についてのお話をいただきたいと思います。まずは、多摩市における地域の自治活動の思い出話から聞かせて下さい。

多摩ニュータウンが出来て、地域活動の中に管理組合が参加する事になりました。昔の多摩村から続く行政に対する理解度がなかなか進まず、そのため既存の自治会との感覚の隔たりがありました。自治会と管理組合と一緒に勉強会をやろうとしても、テーマが決められず別々の活動になりましたね。

例えば、多摩市の社会福祉協議会がありますが、昔から自治会は各戸から賛助金を集め協力するのは当たり前のことでした。管理組合からは、なんで俺たちが出さなきゃいけないのかと言います。私は“多摩市に来て多摩市民になっている今、多摩市の行政などにもっと理解を深めてほしい”と強く説きました。その後、一年位して“勉強不足で申し訳なかった”と言っ

てきました(新たな共助精神の構築です)。

消防団の問題でもそうでした。多摩村の時代は9分団あり、それぞれの地域で各分団に支援を行っていました。賛助金の形で何十万単位で自治会が拠出し、支援していた地域があります。(今日でも多くの地域で、各消防団の分団ごとに支援を続けている所があります。消防分団は、地域を中心的に構成されているとはいえ、活動範囲は多摩市全域にわたる。)ところが、市の方から消防団へは市が資金負担するので、自治会は資金を出さないでほしい…との話があり、管理組合からは“火災の時は多摩市の消防署が来るので別途に分団は必要ない”と言い、ましてや資金支援はしないと、このような認識の違いもありました。

— 田中さんは、落合地区の第8分団に入っておられたんですね。

当時大人は兵隊にとられ、昭和18年に高等

小学校卒業後14歳で青年団と消防分団に入団しました。

— その昔、落合は一つでしたね。

江戸時代より5人組と言うのが組織の単位でした。明治になって、唐木田・中組・山王下・青木葉・下落合(上之根)の5区があり、これをまとめて講中と呼びました。戦後、この講中がそれぞれ自治会を名乗るようになりました。そういうなかで私は昭和55年から平成11年まで落合自治会役員を務めました。ニュータウンもでき人口が増えてくる中で、「このままじゃ、どうしようもなくなる」と思って、私が各自治会にそれぞれ独立した自治会になるように提案しました。そうしたら猛反発をくらいましたね。「なんで、江戸時代からの伝統をかなぐりすてるんだ」って。それで落合自治連合会にしたわけなんです。

— 落合の辺りは、水田中心の農家でしたか。

多摩村は、明治22年、落合村・貝取村・乞田村・関戸村・連光寺村(馬引沢合)・一ノ宮村・和田村・寺方村の8村と百草・落川の飛地を合併して作られています。落合村は村の最西地で、丘陵の狭間にあり、耕作面積は水田より畑の方が多かったです。

— 会長時代の自治連では、どんな活動がありましたか？

スポーツ大会が盛んでしたね。男子はソフトボール、女子はバレーボールでした。今のスポレクの前身です。

— 見せて頂いた資料の中に、世田谷の弦巻の住民による支え合い活動記録があります。その中に、「皆さんお茶にしませんか」と言うのがあります。これは世田谷弦巻の取り組みのキャッチフレーズですね。

当時(平成10年頃)、すでに“少子高齢化”と言う問題意識がありました…そこで世田谷の



弦巻に、役員で視察研修をしました。地域活動には、いろいろな事を考えながら取り組む必要がある事を強く感じました。

— 同じく資料の中に“粉屋踊り”と言うのがありますね。

それは、念仏踊りの流れを汲む踊りです。明治期に山王下出身の木挽き職人が若い頃千葉県周辺を歩き、粉屋踊りを覚えて多摩に帰郷後、山王下の若者に芸を教え、近隣の祭礼などでも舞台を務めました。また、山王下地区の結婚式の披露宴では、粉屋踊りで盛り上がりました。昭和43年ごろに、小泉力造氏の指導により「新川踊り保存会」が結成され、昭和53年ごろに活動を停止しました。その後、市の要請により平成8年に開催された富士見町(長野県)・多摩市友好都市締結10周年記念式典祝賀会において、「新川・伊勢音頭(手踊り)」を披露し、山王下粉屋踊りが復活し、私が保存会の会長を務めています。

粉屋踊りの名称については、通称粉屋踊りまたは万作踊りなどと言われ、手踊りと段物(芝居まがい)とで構成されており、山王下粉屋踊りの名称は、千葉県芝山町白檜粉屋踊り(手踊り)が代名詞になっています。現在残念ながら、粉屋踊りは踊っていません。

— 多摩市の地域の歴史を知る貴重なお話もありました。本日は、本当にありがとうございました。

竹田 英生 さん (馬引沢団地自治会)

多摩市自治連合会 第9代会長



平成6年(1994)自治連合会総務委員として役員に就任。副会長を経て、平成12年会長に就任され、平成15年までの4年にわたり多摩市自治連合会会長を務められました。同時期に、社会福祉協議会の会長も兼務されました。今も地域の老人会(千歳会)会長として、地域活動に深遠な思考と積極的な行動力を持って取り組んでおられます。

— 今日でも現役で積極的に活動されていますが、経験の中から様々なお話をお聞きしたいと思います。

現役と言えば現役ですが、筋金入りの年金生活者です(笑)。

— 様々な組織の会長を経験され、今も老人会(千歳会)の会長をされる中でパソコンも相当されるとお聞きしましたが。

もう7年以上になりますが、地域の団地で高齢者を対象にパソコンを教えています。420～430回続いています。よく続けられたと思いますよ。皆さん大概のことはできるようになりました。最近では、三角と四角と円で絵を描く事なんかに取り組んでいます。

— 何人位おられますか。

あまり増えていませんが、10人位います。パソコン教室に入った方が、老人会にも入るんです(笑)。

— パソコン教室に入らないと老人会に入れない?(笑)

そうではありませんが、入口の一つです。最近では、老人会もメンバーが増えないとの悩み

があります。今度、“脳の活性化”に取り組めます。認知症予防やボケ防止ですね。脳活とって、切り絵などの細かい作業などは、脳トレに有効です。パソコン教室も毎週楽しみにしている方もいます。大きな励みになります。(地域の人々の現実に対応して、常に前向きに取り組む氏のその姿には、私達が地域自治活動の指標を示すヒントが多く潜んでいると思います)

— 自治連合会でスポレクの呼称で開催していますが、前身は体育祭として始めたのが、バレーボールとソフトボールでしたね。あれは諏訪中学校でしたね。

そうです。自治連合会の行事として始めま





した。ただ体育祭を続ける中で、地域自治会
の間に力の差が出てきました。特に馬引沢団
地自治会は強くて、優勝の常勝チームでした。
そのためか、参加者が少なくなっていました。
そこで、私が平成12年よりバレーボール・
ソフトボールを廃し、誰でも出来る種目で開催、
スポレクと称し新たな体育祭を始めました。

— 4年間自治連合会会長をされていますが、
満期で辞められたんですか？

会長退任後、平成15年まで副会長を務め、
通算10年在任です。いいでしょうか…ここで
ちょっと注文がありますけど。

— どうぞお願いします。

広報の発行が年2回です。記事内容が、い
つも後追いですね。

— 確かにそうです。行事等の参加呼びかけ
ができなく、会員加入増加の足枷になってい
る部分もあります。(広報活動の充実はどんな
組織でも重要な事です。貴重な助言でした)

私も老人会の広報を担当していますが、“予
告的記事優先と毎月発行”を意識しています。
(事前予告記事の情報は、皆さんに対応する
思考時間を与えてくれます。自治連合会とし
ても、予算の制約がありますが“臨時号外的
広報発行”を以前から唱えています。今後ぜひ
実行したい)

— 多摩市自治連合会に、これから期待する
ものは？

そんな僭越なこと。(笑)ただ“管理組合で
は、財産管理が主たる目的”とする中、自治
会との一体感は進んでいると思う。(多摩市民
として地域社会を構成しています。管理組合も
地域活動等への参画も必要です)

— 平成26年に朝霞市とその自治会との交流
会で、多摩市で自治会と管理組合が一緒に活
動していることに驚いていました。

地域活動では同じです。馬引沢団地自治会
の良いところは、福祉的な活動においても継
続的な地域活動ができるようになったことで
す。ボランティア活動もそうです。

— 貴重なお話、大変ありがとうございました。



佐伯 勇さん (東寺方自治会) 多摩市自治連合会 第11代会長



平成13年(2001)自治連合会総務委員として役員に就任。副会長を経て、平成19年会長に就任され、平成21年まで3年にわたり多摩市自治連合会会長を務められました。地域の文化を大切に守り、とりわけ祭礼御神輿には余念がない。太鼓打ちの師匠として多くのお弟子さんを育てられ、伝統文化の継承にも貢献されました。

— 神輿を担いだり、畑もさされていてお元気そうですね。自治連の会長時代や地域活動の思い出などをお聞かせいただきたいと思います。

それがね、突発性難聴を患って…。それで地域自治会も多摩市自治連の活動を退いたんですよ。それ以来、都合が悪いと私は耳が聞こえませんから…とね。(笑)

— 田中さん(自治連第8代会長)も87歳になったようですがお元気でした。ただちょっとお耳が。

私は78歳ですが、田中元会長は10歳年上なのですね。

— 健康維持でラジオ体操を毎朝やっておられるのですか。

自分で号令をかけてやる程度ですよ。今日のお話に備えてメモを作っています…これです。そこにも書いてありますが、今年の夏は千葉さんに頼まれて和田盆踊りで太鼓叩きを引き受け、二日間しっかり叩きました。

— 飛地の地番整理は何とかなりませんかでしょうか？

(補足説明…急激に進んだ多摩市の都市化



は町名、地番の整備が追い付かず、未整備地がある)

多摩市の地番整備に関する委員会の委員もやっていますが、解決の目途が見えません。乞田の一部、寺方、和田、落合が対象地です。一番もめているのは、寺方と和田の境です。(現実に郵便配達や宅配などは困っています)

— 自治連会長時代の思い出をひとつお聞かせください。

3年かけて自治連役員任期等を検討した事ですね。元々各自治会の会長さんの集りですから、地区の会長を降りたら資格がなくなります。そこで 団体代表から団体推薦に変えました。任期は、1年。ただし再任は妨げない。

これを任期2年に変更しました。会長任期については、1期2年、3期までと変更しました。昔は自治会会長は、10年位続けるのが普通でしたが、弊害も聞きます。

— 視察研修では、どんな事が印象に残っていますか？

参加されたご高齢の自治会長さんの愚痴をよく思い出します。普通個別に自治会長さんとお話する機会が少ないものですから、自治会運営に苦勞している会長のお話が印象に残っています。

— 最後に、自治連への要望やご意見を願います。

地域の自治会で監査と顧問をしています、自治連の情報として入るのはスポレクと“自治連たま”の広報だけです。

情報の提供、発信が弱い。そのため、一般市民から見ると、自治連は何をしているのかよく理解できない方が多いと思う。特別な行事などを企画された場合、現役を離れたとはいえ、自治活動に貢献された歴代の会長へも情報提供をいただけると助かります。

— 本日は、貴重なお話やご提言を頂き、大変ありがとうございました。



.....

多摩市自治連合会は、昭和40年に林信一氏を初代会長、平成27年の会長は第12代になります。50年の継続の歴史の中で、すでに多くの方が故人となりました。この度は、会長経験者の御三方にインタビューをお願いし、お話をお聞きする事ができました。さまざまなお話を頂戴しておりますが、要旨をまとめた内容で、掲載させていただきました。

(インタビュー担当 増田副会長・一ノ関広報委員・菊川広報委員)

.....